ICTニュース

大阪府済生会中津病院　感染対策チーム

2017年9月号
Vol.49
（2017年9月5日発行）

中津病院における血流感染について（ASTにおける検討結果より）

当院では昨年度より**抗菌薬適正使用チーム（AST）カンファレンス**を毎週開催しており、その中で血液培養陽性であった全症例に対する検討を行い、血流感染の有無についても判定しています。結果については、既に院内掲示板にもアップさせていただいていますが、その一部について改めて本号でも紹介し、若干の分析を加えたいと思います。

2017年1月～6月の6か月間での中津病院内での血液培養検査陽性例は199例でした。この199例中ASTカンファレンスにおいて血流感染と判定されたものが146例でした。この血流感染と判定された146例中、感染のフォーカスとして最多であったのが尿路系感染で38例（26.0%）、次いで胆道系感染26例（16.4%）、CV関連感染17例（11.6%）、肺炎15例（10.3%）の順でした。例数は少ないですが、肝膿瘍は4例、腸腰筋膿瘍、蜂窩織炎は共に3例、感染性心内膜炎は2例でした。この感染フォーカスの1番目から4番目まで（尿路系、胆道系、CV関連、肺炎）で94例となり、感染フォーカスが明らかであった120例の中で78.3%を占めます。なお、感染フォーカスが不明であった血流感染は26例（17.8%）でしたが、これは血液培養以外の培養検査を積極的に行っていただければかなり減少するとの印象を持っています（図）。

それから、尿路系がフォーカスであった38例の起炎菌数は38、最多はE. coli（24例）であり、グラム陰性桿菌が36（94.7%）を占めました。胆道系は24例中起炎菌数が31と多く、複数の菌種が検出されることも珍しくはありませんでした。起炎菌はE. coli（8例）とKlebsiella pneumoniae（7例）が多く、グラム陰性桿菌の占める割合が83.8%でした。一方、CV関連の場合、17例中の起炎菌数は22、黄色ブドウ球菌系（MRSA、MRSE、MRS等）が12例と多く、グラム陽性球菌が63.6%、真菌が18.2%（4例）でした。

血流感染を疑って抗菌薬の投与を行う場合、当初は経験的治療（Empiric therapy）を行わざるをえない場合が大半だと思われますが、**血流感染であった場合にどこがフォーカスである可能性が高いか、その場合には起炎菌として何を考慮すべきか**等を考えながら抗菌薬の選択を行っていただければと思います。　（感染管理室　安井良則）

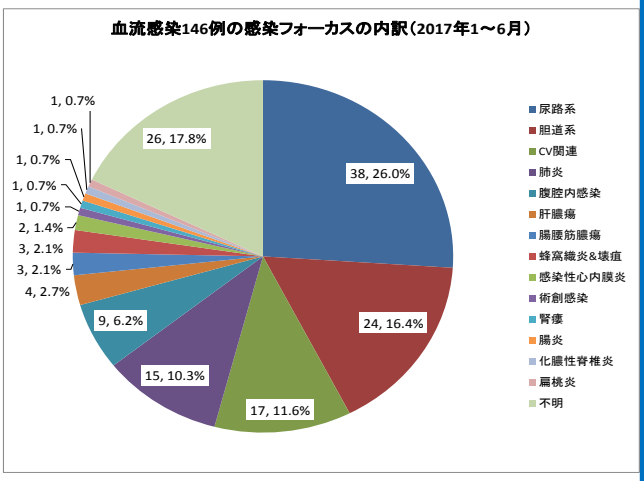


図. 済生会中津病院の血流感染146例の感染フォーカスの内訳

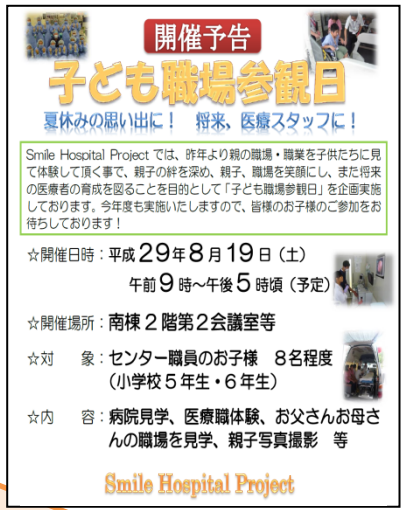
子ども職場参観日に協力させていただきました～

昨年より、中津病院のSmile Hospital Project（SHP)主催による『子ども職場参観日』が開催されておりますが、感染管理室も協力させていただいております。（開催概要はSHP発行の開催予告をご参照下さい）

今年も6名のお子さんが参加され、感染管理室からは、

【正しい手洗いをしましょう！】

ということで、医療従事者にも口酸っぱく言っている手指衛生について講義とブラックライトを用いた演習をさせていただきました。また、手の培養も保護者の方を通じて採取していたので、最後にそれぞれどれだけ菌が生えたか見てもらいました。30分という短い時間でしたが、子どもたちは目をキラキラさせて熱心に取り組んでくれて、とっても可愛かったです♪少しでも感染対策に興味を持ってもらえることが出来たのなら嬉しいです。子ども職場参観日、いい取り組みです！また来年開催されるときには協力させていただきたいと思います。　（感染管理室　堀越敦子）



講義の様子。みんな真剣に聞いてくれています。可愛いです。

参観日2日前に手形を取って持ってきてもらい培養した結果。
みんな結構菌が生えています・・・
子どもたち
「うわぁ～」
と言いつつ見ています（笑）